

ドローンの資格取得について

市長 実証事業における効果等を検証した上検討する。



井上末喜 議員

ドローンの資格取得について

議員 最近では、ドローンを使用した成育や肥料、農薬の散布等注目されているが、資格取得のための講習会の助成がでないか。

市長 本市では、令和3年度に南島原アグリテクノプランを策定し、専業農家はもとより、兼業農家や高齢化した農業者を対象に、露地作物である水稲や野菜等の防除作用の効率化を目的として、農薬散布など、農業用ド

ローンを活用した実証事業に取り組むこととして、講習会への援助は、実証事業における効果等を検証した上検討している。

議員 資格を取得したらドローンの購入ということになるが、購入に対する助成等考えているのか。

農林水産部長 まず、ドローンの効果について実証するように今進めているので、資格の援助についても併せて検討していきたい。



農業用ドローン

口之津の第五分団の詰所の施工について

議員

数年前の熊本地震

により、基礎に亀裂が入り、危険すぎる状態のまま放置されているので、早い対応をお願いしたい。最近では熊本や島原半島でも頻繁に地震が起きている。いつ大きい地震があるか分からない状態で危険なときに地震、台風、災害時に分団詰所の待機というのが一番怖いと皆さんが言っている。それを踏まえて今回で2回目の質問である。もしもの時は誰が責任を取るのか、命の保障は誰がするのか伺いたい。

市長 口之津第五分団詰所については、令和2年度で測量設計を完了し、令和3年度当初予算に建て替え工事の予算を計上している。令和3年度において速やかに着手したいと考えている。もしものときは誰が責任を取るかとのことも、令和3年度に速やかに建て替えるという事で、御了解していただきたい。



農業を活性化させるために、市はどのような対策を講じていくのか

市長 未来農業フロンティア推進事業を推進していく。



中村哲康 議員

農業振興について

議員 未来農業フロンティア推進事業の詳細を。

農林水産部長 未来農業フロンティア推進事業とは、Uターン・Iターンにより南島原市で農業を始めようとする就農希望者が、農業の体験、研修、農地の確保、農業関係機材の確保など、包括的に相談できる機関として、令和3年度に民間企業と本市が共同で農業法人の設立を目指している。この農業法人が就農希望者の受皿となり、2年間の

農業研修を実施、3年目からは新規就農者として営農ができるように支援していく。また、研修の対象品目である、温州ミカンを主体とした果樹栽培に取り組む農業者が増えることで、果樹栽培面積の拡大や遊休農地の解消を図り、農業振興を展開していくものである。



未来農業フロンティア推進事業イメージ

ある。それが完了し次第、地元説明会に入ろうと思うっている。その中でも、そういう問題についても、地元の方と解決の方法を協議していきたいと思っている。

議員 サイクリンググロウドに面した農地に行くことができないという市民からの苦情があるが。

建設部長 自転車歩行者専用道路、島鉄跡地については、今現在、1期地区、加津佐から南有馬までの実施設計を行っているところであり、この3月に一応完了する予定で

農林水産部長 減農薬や農産物の鮮度保持を目的とし、農業用電解生成装置を平成28年度に導入している。電解水は農薬の代用として使用でき、殺菌効果があるが、作り置きできず、生成する作業に時間がかかるため利用希望者が少ないという課題がある。また、農業とは直接の関係はないが、新型コロナウイルス感染症関係で、消毒液の不足が問題となった際、殺菌効果がある電解水を市内の老人福祉施設や市民に配布し非常に喜んでいただ

